



やまゆり園事件を問い直す・・・

横浜地裁はやまゆり園事件の植松聖被告に死刑の判決。裁判で被告は「意思疎通出来ない障がい者はいても意味が無い」との主張を変えなかった。

障がい者問題を問直す

この事件は障がい者に関係する人権や政策、施設での労働条件等、広い範囲の問題に関わっている。それを問い直す裁判であって欲しかった。しかし、そうした問題にまで掘り下げられることは無かった。

刑罰ではなくて

刑法には無いが終身刑(＝仮釈放の無い無期懲役)として、被告には一生をかけて見つけ直して償って欲しい。「多数の人を殺した罰として最高刑の死刑」という論理だろうが、

本人が死ぬ気なら自殺を助けるようなものを。

インクルーシブ教育を

補助教員や看護師を配置して障がい児と健常児と一緒に学ぶインクルーシブ教育が国内でも少しずつ始められている。そこは障がいも含めお互いの違いを個性として認め合う事が出来る場だ。

その体験があればやまゆり園での被告の体験も違っていただろう。

労働条件は？

月に何回もある深夜勤。ある入所者の手当をしていたら、他の者からも要求が。忙しい割には低い賃金。

色々な問題を考えさせられる裁判だった。皆さんはどう思われますか？

シラカシ（白樫）

神奈川県横浜市南区永田みなみ台
二〇二〇年三月



白樫を見て「おおきなき
がほしい」と云う絵本(佐藤
さとる作、村上勉絵)があっ
たことを思い出した。木に
はしごをかけて小屋を作る
と、リスや小鳥が訪ねて来
る話。

この木の辺りでは電線を

伝い歩きする台湾リスをし
ばしば目撃している。雀、
四十雀、目白、鶉、椋鳥な
ども多数。木の上に小屋を
作ったら・・・と想像が膨ら
む。

秋になると沢山のドング
リが落ちて子供達が拾って

来る。そうしたドングリを
胴体として、竹ひごを通し、
両端にもドングリをつけて
弥次郎兵衛。

自然のままだと、白樫は
冬でもこんもりと繁るが、
ここでは、風がよく通るよ
うに手入れされている。

先週は休みました

